

# みどりのゆび

諏訪中央病院グリーンボランティア通信 No.120号 2021年9月15日発行



## アサギマダラがやって来た！

7月7日、偶然にも七夕の日です。開花したヨツバヒヨドリに、アサギマダラの飛来が当方の庭として初確認されました。

東庭のネムノキ下は蝶が来る庭、蝶が舞う庭を想定しています。蝶の中でも特に海を渡ることで有名になったアサギマダラが来てくれることを願って、フジバカマやヒヨドリバナ、ヨツバヒヨドリなどが植えられています。

これらの植物はいずれもフジバカマ属で、花の蜜にアルカロイド系の毒性物質を含みますが、アサギマダラの雄（10頭中9頭が雄）はこれを好んで十数キロ先から嗅ぎ付けてやって来るそうです。性フェロモンや繁殖行動に必要な物質であることが明らかにされています。雌は特に吸蜜植物を選ぶ必要がなく、いろいろな花に来るとされています。

アサギマダラは気温 21℃前後を好み、吸蜜花の開花前線を追いかけて、世代をつなぎながら南北を旅していることが、ここ 40 年くらいのマーキング調査で分かってきました。和歌山県で放たれた個体が約 2500 km 離れた香港で再捕獲されることがありました。省力化して滑空する優雅な姿を、また長旅の中で吸蜜し羽を休めている姿を患者さんにぜひ見ていただきたいと思います。金子（俊）]



## お知らせ

以下のイベントを予定しています。

10月27日（水）10：00～

ハロウィンのランタン作り

10月29日（金）16：30～

ハロウィン ランタン点灯

屋外にて行いますので、奮って、ご参加ください。

なお、11月のバザーについてはコロナの感染状況が見通せないなので、今のところ、未定です。

決まり次第、お知らせします。



## 杜仲の木



ガーデンに『杜仲』の木がありました。杜仲茶は身近な存在ですが、杜仲の木は珍しいと思います。しかも、私たちが毎週集まるところにあったのです。

ガーデンの南側は木々が生き茂って日が当たらないところがあります。多少、伐採ないし枝落としをしたほうがよいのではないかとということで、先日、該当するものに紐を付けていたところ、その中に皆が何の木だろうと首を捻るものの、思い当たらないものを見つけました。それが杜仲の木でした。入江さんが調べてくれて、特定できました。道具小屋の並びにひっそりと佇んでいました。

杜仲の木については、ネットの情報によると「落葉広葉樹、雌雄異株、葉は楕円形、花は緑色がかかった白色、実は翼果、20年程度で樹高は20m程に成長する。樹皮や枝を折ったり、葉をちぎると糸を引く。樹皮は漢方薬の原料として、また、若葉はお茶の原料として利用される」とありました。

これから、杜仲茶を飲むとき、この木を思い浮かべると、今までと違った味がしてくるかもしれません。  
[篠田]

## 新しいメンバーです

☆6月にメンバーになりました。水曜日は用があるので、10時半までしか参加できませんが、よろしくお願ひします。今行ってみたいのは高知県川北村にある「モネの庭」。コロナが終わるのが待ち遠しいです。  
[遠藤久子]

## コラム No.15

## ”新雪“によせて

西ガーデンに咲く純白の大輪のバラ“新雪”。1972年、ミスターローズと呼ばれたバラ育種家、鈴木省三（1973～2000）により作出されました。（鈴木省三氏については『青いバラ（最相葉月著）』に詳しく書かれています）

エリ子先生のお庭からお引越してきた“新雪”は四季咲きのバラですが、ここでは二季咲き。当時、2階にあった緩和ケア病棟（現在は5階北棟にあります）の窓から眺めることができたそうです。ある秋の日、凜と咲く一輪の白いバラ“新雪”を目にし、様々な思いの中で再び力を与えられたと話して下さった患者さんがいたそうです。



“新雪”に限らず、このガーデンの花たちは、その時、その時に訪れる方の手をさりげなくとり、心に寄り添う特別な存在なのではないでしょうか。そして、私たちの手はガーデンになくてはならないもの……想いは広がります。  
[吉田]